

施設の集約・複合化案について

集約・複合化A案:仙台医療センター跡地における再編案

□:メリット ■:デメリット ◇:考慮すべき事項

	概要		施設の特徴		課題等
			施設同士の親和性・期待される効果	交通アクセス・周辺環境との関係	
A-①	施設構成	現況延床面積	<p>□劇場と美術館は、ジャンルは異なるものの、いずれも文化芸術の振興という共通項があり、舞台芸術と美術が一体となった文化芸術の魅力を発信する拠点として表現の幅が広がることが期待できるほか、情報発信・集客等の面で相乗効果が見込まれる。</p> <p>□三施設の会議室(研修室・講堂)機能、県民会館及び美術館の貸し展示室(県民ギャラリー)機能の共有化により、規模の適正化が図られる。</p> <p>□NPOの活動拠点であるみやぎNPOプラザに、災害時におけるNPOの活動拠点としての機能を付加することで、近接する広域防災拠点と連動した災害対応が可能となる。</p> <p>□集客施設とNPOの活動拠点が併設することにより、NPO活動の発信力の強化が期待できる。</p>	<p>□JR宮城野原駅に直結し、幹線道路に接している土地のため、交通の利便性が非常に高い。よって、県内外からの利用者が見込まれる施設(県民会館と美術館)の立地に適している。</p> <p>□周辺には宮城野原公園総合運動場や広域防災拠点(平時は公園、緑地。今後整備予定)などの県民の憩いの場となる県有施設が広がっている。新たに文化芸術の拠点施設が立地することにより、周辺の広大なエリアを一体的に運営することが可能になり、これまで以上に県民の多様なニーズに対応することが可能になるほか、既存施設の利用価値の向上が見込まれる。</p> <p>◇周辺に住宅地が存在しており、大規模集客イベント開催時などには、住環境への十分な配慮が必要。</p>	<p>◇県民会館と宮城県美術館という、それぞれの分野における県の中核的な施設の集約化による利点を最大限生かすためには、ソフト、ハード両面から十分な検討が必要になる。</p> <p>◇美術館の建設には文化財の保存・公開するための一定の基準が設けられている。</p>
	・東京エレクトロンホール宮城(県民会館)	約12,470㎡			
	・宮城県民間非営利活動プラザ(みやぎNPOプラザ)(榴ヶ岡分室庁舎)	約1,262㎡			
	・宮城県美術館 ※本館及び佐藤忠良記念館等	約15,203㎡			
	施設想定規模※				
	約28,935㎡				
	他地方公共団体の類似事例				
・上田市文化芸術センター・上田市立美術館(サントミュージーゼ)(長野県上田市) ・愛知芸術文化センター(愛知芸術文化センター栄施設)(愛知県) ・島根県芸術文化センター(グラントウ)(島根県)					
A-②	施設構成	現況延床面積	<p>□宮城野原公園総合運動場と第二総合運動場が近接することにより、スポーツの拠点エリアとしての機能が高まる。</p> <p>□県民会館とみやぎNPOプラザの会議室機能の共有化により、規模の適正化が図られる。</p> <p>□NPOの活動拠点であるみやぎNPOプラザに、災害時におけるNPOの活動拠点としての機能を付加することで、近接する広域防災拠点と連動した災害対応が可能となる。</p> <p>□第二総合運動場(武道館等)は、構造(畳敷き、板張り)上、柔軟に活用することが可能であり、災害時に、広域防災拠点のバックアップ施設として機能することが期待できる。</p> <p>■県民会館と第二総合運動場は、文化芸術施設とスポーツ施設ということで、その性格も利用者層も異なっており、A-①と比べると、新たな価値の創造などの集約化による相乗効果の発揮という点からは、効果は薄いと考えられる。</p>	<p>□JR宮城野原駅に直結し、幹線道路に接している土地のため、交通の利便性が非常に高い。よって、県内外からの利用者が見込まれる施設(県民会館)の立地に適している。</p> <p>□周辺には宮城野原公園総合運動場や広域防災拠点(平時は公園、緑地。今後整備予定)などの県民の憩いの場となる県有施設が広がっている。新たにスポーツ施設や文化芸術施設が立地することにより、周辺の広大なエリアを一体的に運営することが可能になり、これまで以上に県民の多様なニーズに対応することが可能になるほか、既存施設の利用価値の向上が見込まれる。</p> <p>◇周辺に住宅地が存在しており、大規模集客イベント開催時などには、住環境への十分な配慮が必要。</p>	<p>■遠的・近的弓道場は築年数が若い(H11・H12築)が、構造の特殊性から、移転後の活用方法が見当たらない。</p>
	・東京エレクトロンホール宮城(県民会館)	約12,470㎡			
	・宮城県民間非営利活動プラザ(みやぎNPOプラザ)(榴ヶ岡分室庁舎)	約1,262㎡			
	・宮城県第二総合運動場 ※武道館、遠的・近的弓道場、合宿所等	約7,547㎡			
	施設想定規模※				
	約21,279㎡				
	他地方公共団体の類似事例				
・川崎市スポーツ・文化総合センター(カルッツ川崎)(川崎市) ・周南市学び・交流プラザ(山口県周南市)					
A-③	施設構成	現況延床面積	<p>□様々な分野の施設を組み合わせることで、多くの利用者が集まり、賑わいの創出に繋がるほか、利便性の向上が期待できる。</p> <p>□民間施設を併設する場合は、県民会館の有する集客力や文化芸術的な価値などのポテンシャルが最大限発揮されるような集約・複合化施設の整備に、民間の柔軟な発想と資本を利用できる。</p> <p>■A-①、A-②と比べると、広域防災拠点との連動による防災面の効用が少ない。</p>	<p>□JR宮城野原駅に直結し、幹線道路に接している土地のため、交通の利便性が非常に高い。よって、県内外からの利用者が見込まれる施設の立地に適している。</p> <p>■大規模集客施設制限地区にあるため、大規模なショッピングモールなどの建築はできない。</p> <p>◇周辺に住宅地が存在しており、大規模集客イベント開催時などには、住環境への十分な配慮が必要。</p>	<p>■県の機能として必要かどうか、県民サービスの向上に資するかどうか慎重に検討する必要がある。</p> <p>■民間施設との併設を図る場合、民間が利用中は、長期間にわたって、県が使用できないほか、事業期間中の民間資本の撤退のリスクがある。</p>
	・東京エレクトロンホール宮城(県民会館)	約12,470㎡			
	・その他(民間施設を含む)	α㎡			
	施設想定規模※				
	約12,470㎡+α㎡				
	他地方公共団体の類似事例				
	・ホルトホール大分(J:COMホルトホール大分)(大分県大分市) ・大和市文化創造拠点シリウス(神奈川県大和市)				

※施設想定規模は、単純に現況の施設の延床面積を合計したものであり、今後整備する施設の延床面積を示すものではない。

集約・複合化B案:現エスポールみやぎ(宮城県青年会館)敷地における再編案

□:メリット ■:デメリット ◇:考慮すべき事項

	概要		施設の特徴		課題等	
			施設同士の親和性・期待される効果	交通アクセス・周辺環境との関係		
B-①	施設構成	現況延床面積	<input type="checkbox"/> いずれも研修や相談を主な業務としており、施設に必要とする機能は類似している。 <input type="checkbox"/> 集約・複合化により、これまで以上に多様な県民が利用する施設となり、施設同士の連携や利用者間の交流促進などにより、サービスの向上を図ることが可能になる。 <input type="checkbox"/> 宮城県青年会館は現地で、他2施設も現在地から大きく離れずに、事業の継続が可能となる。 <input type="checkbox"/> それぞれの施設が持つ会議室(研修室)機能の共有化により、規模の適正化が図られる。 ◇宮城県青年会館の宿泊機能については、主な利用者である学校関係者が利用しやすいような低廉な料金を設定する必要がある。		<input type="checkbox"/> 移転前の施設と比べて、宮城県母子・父子福祉センターは交通の利便性がやや向上する。 <input type="checkbox"/> 利用者数の増加が見込まれるものの、周辺は県関係施設(障害者福祉センター・保健環境センター・消防学校等)が多いことや、利用形態も従前とあまり変わらないことから、周辺環境への影響は小さいものと思われる。 <input type="checkbox"/> 付近に飲食店やスーパー等の商業施設もあり、研修や相談で訪れた利用者にとって利便性がよいものと思われる。 ■宮城県婦人会館は最寄り駅からの距離がやや遠くなる。(徒歩10分→20分)	
	・宮城県婦人会館(榴ヶ岡分室庁舎)	約479㎡				
	・エスポールみやぎ(宮城県青年会館)	約2,308㎡				
	・宮城県母子・父子福祉センター	約921㎡				
	施設想定規模※					
	約3,708㎡					
	他地方公共団体の類似事例					
—						
B-②	施設構成	現況延床面積	<input type="checkbox"/> いずれも研修や相談を主な業務としており、施設に必要とする機能は類似している。 <input type="checkbox"/> 集約・複合化により、これまで以上に多様な県民が利用する施設となり、施設同士の連携や利用者間の交流促進などにより、サービスの向上を図ることが可能になる。 <input type="checkbox"/> 宮城県青年会館は現地で、他3施設も現在地から大きく離れずに、事業の継続が可能となる。 <input type="checkbox"/> それぞれの施設が持つ会議室(研修室)機能の共有化により、規模の適正化が図られる。 ◇宮城県青年会館の宿泊機能については、主な利用者である学校関係者が利用しやすいような低廉な料金を設定する必要がある。		<input type="checkbox"/> 移転前の施設と比べて、宮城県母子・父子福祉センターは交通の利便性がやや向上する。 <input type="checkbox"/> 利用者数の増加が見込まれるものの、周辺は県関係施設(障害者福祉センター・保健環境センター・消防学校等)が多いことや、利用形態も従前とあまり変わらないことから、周辺環境への影響は小さいものと思われる。 <input type="checkbox"/> 付近に飲食店やスーパー等の商業施設もあり、研修や相談で訪れた利用者にとって利便性がよいものと思われる。 ■みやぎNPOプラザ、宮城県婦人会館は最寄り駅からの距離がやや遠くなる。(徒歩10分→20分)	
	・宮城県民間非営利活動プラザ(みやぎNPOプラザ)(榴ヶ岡分室庁舎)	約1,262㎡				
	・宮城県婦人会館(榴ヶ岡分室庁舎)	約479㎡				
	・エスポールみやぎ(宮城県青年会館)	約2,308㎡				
	・宮城県母子・父子福祉センター	約921㎡				
	施設想定規模※					
	約4,970㎡					
他地方公共団体の類似事例						
—						

※施設想定規模は、単純に現況の施設の延床面積を合計したものであり、今後整備する施設の延床面積を示すものではない。